



# 迎春



題 字  
初代会長 松野 盛吉  
定 価 1部 48円  
(購読料は年会費に含む)  
発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail: ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二十六年全国統一防火標語  
もういいかい  
火を消すまでは  
まあだだよ

## 年頭の ごあいさつ

公益財団法人秋田県消防協会  
会長 中田 潤



平成二十七年の  
新春を迎え、県  
民の皆様並びに  
消防職・団員は  
じめ消防関係者  
の皆様にご挨拶を申し上げ  
ます。

消防職・団員及び消防関係者の皆  
様には、日ごろから地域住民の生  
命・財産をあらゆる災害から守るた  
め、日夜献身的に活動され、様々な  
努力をなされておりますことに心よ  
り感謝と敬意を表します。

新しい法人に移行して三年目とな  
る昨年を振り返ってみますと、二月  
二八日第六回日本消防協会定例表  
彰式において、大仙市消防団が最高  
の栄誉であります、特別表彰「ま  
と」を受章しました。これまで大仙  
市消防団が消防技術の向上に努める  
とともに、長年築いてきた消防団の

伝統ある功績が認められた結果であ  
ります。

五月二〇日理事の任期満了に伴  
い、新たに会長等を選定する臨時理  
事会を開催し、正副会長の留任を決  
定しました。

六月二八日大仙市大曲市民会館に  
おいて開催しました第六七回秋田県  
消防大会には、県内各地域から八〇  
〇名を超える消防職・団員が参加、  
各支部から選出された団員が、これ  
からの消防活動に対する提言等を発  
表しました。また、この大会では初  
めての試みとして事例発表を行いま  
した。

九月四日には、第五一回秋田県消  
防操法大会が行われ、予選を勝ち抜  
いて出場した各消防団は、日ごろの  
鍛錬の成果を十分に発揮しました。

全国大会出場の前選を兼ねての大会  
でしたので、一層力が入っておりま  
した。また、今年の大会から、これ  
までのチーム表彰に加えて、新たに  
優秀な成績を収めた消防団員を「優  
秀選手賞」として表彰しました。

一月に入り、八日には第二四回  
全国消防操法大会が開催され、本県

代表として大潟村消防団が、ポンプ  
車の部に出場、大健闘しました。一  
四日には、第二〇回全国女性消防団  
員活性化ちば大会が開催され、本県  
からも過去最高の五四名が参加しま  
した。大変有意義な大会で、今後の  
活動に大いに参考になったものと思  
えております。

さて、昨年の災害の発生状況であ  
りますが、皆様の懸命なるご尽力に  
も関わらず、三四名の方が火災によ  
り尊い命を失っております。また、  
大雪により人的被害のほか、農業関  
連においても多大な被害が発生しま  
した。更には六月から八月にかけて  
の大雨や突風により建物等にも大き  
な被害をもたらしました。

こうした中、安心・安全に寄せる  
地域住民の期待は益々大きくなって  
おり、私たち消防人は、その負託に  
応えられるよう、なお一層の精進を  
重ねていく必要があると決意を新た  
にしているところです。

団員の減少のほか、高齢化やサラ  
リーマン化の進行など消防団を取り  
巻く厳しい環境の中で、協会といた  
しましても微力ながら、各事業に全  
力で取り組んでまいります。

結びに、県民の皆様並びに消防関  
係者のご健勝と、本年が厄災のない  
良い年でありますようお願い申し上  
げまして、年頭のごあいさつといた  
します。

# 平成二七年の 新春を迎えて



秋田県知事  
佐竹 敬久



平成二七年の  
新春を迎えるに  
当たり、県内消  
防関係者の皆様  
に謹んで年頭の

御挨拶を申し上げます。

火災を始め様々な災害から地域住民を守るため、昼夜を問わず消防防災活動に御尽力いただいております消防団員、消防職員の皆様の御労苦に対し、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

我が県の消防は、関係各位のたゆまぬ御努力の積み重ねにより着実な発展を遂げ、県民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしております。

さて、昨年の国内での主な災害を振り返りますと、八月には「広島市の大雨による土石流災害」、九月には「御嶽山噴火」、十一月の「長野県北部の大地震」など大規模災害が相次いで発生し、多くの方が犠牲となられました。心からお見舞い申

し上げます。

本県においても、二月に県南部での豪雪、六月から十一月にかけては度々、ゲリラ豪雨で住家被害が散発したほか、突風による被害も発生しております。

県としましては、このような災害から県民の生命と財産を守り、安全・安心を確保していくため、各市町村、消防本部との連携を更に強化し、消防・防災体制と救急救命体制の充実、消防団や自主防災組織の強化など、総合的な防災力の向上に向けた各種施策を積極的に推進してまいります。

皆様方におかれましては、県民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、なお一層の御精進と御尽力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

結びに、本年が災害のない平穏な一年でありますことを、そして、皆様方の益々の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。心からお願い申し上げます。



# 新年の ごあいさつ



秋田県議会議長  
能登 祐一



あけましてお  
めでとうござい  
ます。  
県内の消防関  
係の皆様におか

れましては、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、皆様、日頃より防災の最前線にあつて、火災をはじめ各種の災害から地域住民の尊い生命と財産を守ることを使命とし、昼夜を分かたず献身的に活動していただけますことに対し、県議会を代表し、心から感謝申し上げますとともに、皆様の活動を見守り、支えてまいります。家族の皆様にも深く敬意を表します。

さて、近年、多発する地震、大雨による土砂崩れや河川の氾濫、竜巻や大雪など、災害が多様化、複雑化する中で、昨年は、八月の広島市における土砂災害、九月の長野・岐阜の県境に位置する御嶽山の噴火、一月の長野県北部地震など、瞬時に

人命が危険にさらされる大規模な災害が発生し、残念ながら多くの方が犠牲となりました。

また、消防職員と消防団員が減少傾向にある中で、高齢化の進展により救急搬送需要が増加傾向となるなど、本県の消防を取り巻く環境も非常に厳しいものとなってきております。

こうしたことから、地域におきましては、避難や備蓄など、住民を対象とした基本的な防災意識の高揚活動や、地域や企業、市町村、県の緊密な連携による情報伝達や支援、訓練等の活動が日常的に求められ、住民の心のつながりを大切にされる皆様一人ひとりに課せられるリーダーとしての責務は、今後、ますます重大なものとなってまいります。

どうか、皆様におかれましては、住民同士の絆に支えられる安心・安全な地域づくりのため、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本年が災害のない平穏な一年となりますことを祈念し、併せて、皆様が増えますことご健勝で活躍されますことを心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

# 年頭の辞



消防庁長官  
坂本 森男



平成二十七年の新春を迎えるに当たり、常日頃から地域の安心・安全を守るため昼夜を分かたず消防防災活動にご尽力いただいております全国の消防関係者の皆様に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、大規模な自然災害により、大きな被害が生じました。

夏には、台風や前線の影響により全国各地で大雨被害が発生し、中でも八月に広島市で発生した土砂災害では七四名の方が犠牲となり、救助活動中の消防職員が再度発生した土石流に巻き込まれて殉職するという痛ましい出来事もございました。

また、六〇名を超える死者・行方不明者が発生した九月の御嶽山の噴火災害においては、高地で酸素が薄く、火山性ガスが発生し、さらに足下に大量の火山灰が降り積もっているという過酷な環境の下で、多くの消防職員が懸命の捜索活動に当たりました。

さらに、辛い死者が発生すること

はありませんでした。一月には、多くの家屋倒壊を伴う地震が長野県北部を震源として発生したところであり、今後、首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模地震の発生も危惧されています。

ひとたび災害が発生すれば、先陣を切って災害現場に駆けつけ、果敢に活動する消防に、国民は大きな信頼と期待を寄せています。このような国民の信頼と期待に応えられるよう、消防庁においても、緊急消防援助隊や常備消防力の充実強化、消防団を中核とした地域防災力の充実強化、二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会等に向けた大都市等の安全・安心対策、火災予防対策、被災地における消防防災体制の充実強化などを柱とした施策に取り組んでいくところです。

我が国の消防は、先人のたゆまぬ努力の積み重ねにより、着実に進展し、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてきました。皆様方におかれましても、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 新春のご挨拶



公益財団法人日本消防協会  
会長 秋本 敏文



新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。今年が皆さまにとつてよい年でありませう心からお祈り申し上げます。また、地域の安全確保にご尽力頂いている消防団員、職員の皆さまに深く敬意を表します。

一昨年末、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。消防団の重要性を明らかにするとともに、地域にあっては消防団が中心になりながら、地域の皆さんの総力を結集して地域防災力の充実強化を進めるとい

う、これまでにない画期的な法律です。この法律の趣旨実現のため、昨年八月、東京都府有楽町の東京国際フォーラムにおいて「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」という我が国初の国民大会を、当協会主催により開催しました。広く消防以

外の各界の方々にもご出席頂き、盛大に執り行うことができました。

一方、東日本大震災後も、各地でこれまでの経験にない局地的な集中豪雨、竜巻、大雪、火山の噴火などの災害があり、さらに近い将来の大規模な地震の発生も懸念されています。どのような災害があっても、東日本大震災の時のような体験を繰り返すことのないよう、新法の趣旨に沿ってより強固な消防防災体制づくりを進めなければなりません。

平成二十七年度は、新法施行後の実質初年度です。地域防災力の中核である消防団については、団員の確保、装備の改善等による充実強化を図り、地域の総力を結集する防災体制強化のスタートを切ることができよう、消防関係者が連携し、国の財政措置、各市町村の予算措置など必要な施策の実現に総力を挙げなければなりません。

また、少年消防クラブや女性防火クラブ、地域の自主防災組織の活動支援なども地域の防災基盤を強化する重要な課題として、引き続き努力します。

消防団員、職員の皆さまの益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げて新年のご挨拶といたします。

# 年頭の ごあいさつ



秋田県市長会会長  
秋田市長  
穂積 志



県内の消防関係者の皆様に、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、日夜、消防技術力の向上と士気の高揚に努められ、地域の安全と安心に全力を挙げて取り組んでおられますことに、心から敬意を表します。

さて、我が国は、近年異常気象の影響により、局地的な豪雨による洪水や土砂災害が全国各地で多発しているほか、大雪や火山の噴火など甚大な災害を及ぼす自然災害が発生しており、自然の恐ろしさとともに常日頃の備えが如何に大切であるかを改めて認識したところであります。

こうした中、秋田県市長会では、人命を第一に考え、土砂災害が発生するおそれのある土地、特に人家のある区域について、早急な基礎調査の実施等とともに、火山に対する関

係機関の情報共有体制の構築や観測体制等の強化を国や県に要請いたしました。

また、各市におきましても、常備消防力の充実強化はもとより、災害に対する市民一人ひとりの自覚・備え・心がけが重要であるとの認識のもと、救助や初期消火、通報連絡等防災に関する様々な訓練や自主防災組織の育成促進など、地域防災力の更なる向上に積極的に取り組んでいくところであります。

本県は、長大な海岸線を有し県土の七割を森林が占めるほか、活火山が南北に点在しております。少子高齢化・人口減少の急速な進展に伴い、社会環境が大きく変化する中で、万が一の際には、常日頃から訓練を重ねられ、高度な能力を有する皆様と地域の方々との総合力が重要となつてまいります。皆様におかれましては、引き続き、地域防災の要として、市民の信頼と期待にしっかりと応えていくため、なお一層のご精進とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年の平穏を心から願い、関係各位のご健勝とご発展を祈念いたします。ごあいさつといたしま

# 平成二七年度の 新春を迎えて



秋田県消防長会  
会長 小林 博美



平成二七年度の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。皆様には、

日頃から消防防行政の第一線にあつて、各種災害から地域住民の生命、身体、財産を守るため、日夜献身的にご尽力されておられますことに、改めて感謝と敬意を表します。

昨年の消防長会の事業について、東北地区各消防本部の協力のもと、第六六回全国消防長会総会を仙台市で開催しました。東日本大震災から三年二ヶ月が過ぎ、全国各地からのご支援を背に受けて復興の坂道を登っている被災地の、そして東北の元気な姿を全国の消防本部の皆様にご感じていただきました。また、第四三回東北地区支部消防救助技術指導会を秋田県立スケート場の駐車場に仮設訓練塔を建てて開催しました。地元開催ということで、秋田県代表

の隊員らはそれぞれに優秀な成績を収め、全国大会への意気込みを語っていたのですが、広島市での土砂災害が緊急消防援助隊の活動となったため、大会は中止となってしまいました。このことに関して、全国には土砂災害危険地域が五二万カ所以上もあるといい、これらの地域の方には、災害の危険性を認識していただき、兆候を察知したり、避難勧告や避難指示が出されたら早めの避難を心掛けてほしいものであります。

このような局地的に発生する自然災害には、常備消防と地域事情をよく把握している消防団との連携による防災力に対応し、広域消防応援体制が必要な場合には県内各機関との連携を図るものであります。

そのための消防団の充実強化については、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の成立を受けまして、消防団員の確保、処遇の改善、装備と訓練の充実などに取り組んでいるところでもあります。

結びに、皆様方の益々のご健勝とご多幸、そして何よりも、本年が災害のない平穏な一年であることをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 災害に備える

## 消防団バイク隊

### にかほ市消防団

平成二六年一月二日、にかほ市消防団では県下初となる消防団バイク隊の発隊式を挙行了しました。

始めに、佐々木護消防団長から各隊員に任命書が手渡され、市長式辞、消防団長訓辞の後、隊を代表して金子英紀隊長が決意表明を行いました。



バイク隊は大規模災害の発生や行方不明者捜索など情報入手が困難となつた場合等に自動二輪車及びマウンテンバイクを使用し積極的に情報収集活動を実施し、必要とする活動部隊の投入を迅速に実施することが目的であり、これは、大規模災害等への備えとなり、災害に強い安全なまちづくりの推進、安心して暮らすことができる「にかほ市」の実現を担うこととなります。バイク隊が装備しているベスト及

びデジタルトランシーバーは、宝くじの助成金(コミュニティ助成事業)で整備しました。

### 金子隊長の決意表明

本日ここに「にかほ市消防団バイク隊」が発隊したことは、にかほ市消防団の新たな一歩を踏み出すこととなり、

地域住民の付託に応えるべく、バイク隊の機動力はもとより、応急手当情報伝達等の技術を磨き、有事の際には十分な力を発揮し、地域住民の生命、財産を守る使命を強く持ち、活動に努める事をここに宣言致します。



### 消防団バイク隊員

- |         |         |         |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 隊長      | 副隊長     | 副隊長     | 副隊長     | 副隊長     | 副隊長     | 副隊長     | 副隊長     |
| 金子 英紀   | 佐々木 雄一  | 菅原 守    | 佐藤 剛    | 伊藤 将司   | 久保 涉    | 佐藤 栄光   | 同       |
| 班 長     | 班 長     | 班 長     | 班 長     | 班 長     | 班 長     | 班 長     | 班 長     |
| 菅原 守    | 佐藤 剛    | 伊藤 将司   | 久保 涉    | 佐藤 栄光   | 同       | 同       | 同       |
| 団 員     | 団 員     | 団 員     | 団 員     | 団 員     | 団 員     | 団 員     | 団 員     |
| 佐藤 剛    | 伊藤 将司   | 久保 涉    | 佐藤 栄光   | 同       | 同       | 同       | 同       |
| 団 員(支援) | 団 員(支援) | 団 員(支援) | 団 員(支援) | 団 員(支援) | 団 員(支援) | 団 員(支援) | 団 員(支援) |
| 久保 涉    | 佐藤 栄光   | 同       | 同       | 同       | 同       | 同       | 同       |

### ◇にかほ市消防団の概要

平成一七年一〇月一日構成三町の合併により、にかほ市消防団と改名。七分団で団員数は五六九名(うち、女性一七名、機能別団員五二名) 平成二六年一〇月一日現在

(情報提供) にかほ市消防本部

消防 半天・帯・団旗  
優勝 旗・ゼッケン  
手拭・タオル・のれん  
旗幕 類名入染物専門

## 寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
消防被服全般  
秋 田 県 代 理 店

総合防災設備センター

## 株式会社 高 義 商 会

- (営業種目)
- トーハツ小型動力ポンプ
  - モリタ自動車ポンプ
  - ジェットホース
  - 消防被服全般
  - 火災報知器各種
  - 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 TEL(0183)(42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

## 株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182)(32)3880

### (営業種目)

- |            |         |
|------------|---------|
| 日本機械自動車ポンプ | キンパイホース |
| トーハツポンプ    | シバウラポンプ |
| 各種消防機械器具   | 各種消火器   |
| 消防設備保守点検   |         |

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)

# 消防団員入団促進 キャンペーン実施中

一月から三月まで

## 消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

## 消防団員数は年々減少

本県の消防団員数は、昭和三十一年には三万六千人が在籍していましたが、その後、過疎化・少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、年々減少し続け、平成二六年に

## 入団促進重点推進事項

は半数を割り込み約一万七千六百人となり、地域における消防防災力の低下が懸念されています。

### (一) 被雇用者の入団促進

現在の消防団員の七二・九%が、会社員などの被雇用者です。消防団活動には事業所の協力が不可欠となっており、より一層、事業所との連携強化を図って、従業員の入団促進を進めていく必要があります。

### (二) 女性の入団促進

消防団員数が減少している中、女性消防団員は増加傾向にあり、本県の女性消防団員数は、平成二六年一〇月現在、三二九名の方が在籍しています。女性消防団員の活動は、火災予防広報、一般家庭や高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及啓発活

動など多岐にわたっています。

### (三) 大学生等の入団促進

消防団員の高齢化が進む中、若年層の消防団員確保が大きな課題となっています。大学生等(専門学校生を含む)の若い力を、消防団活動で発揮していただくことは大変有意義なことです。全国では、二千四百人(平成二五年)の大学生等が消防団で活躍しています。

## 多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。是非、多くの皆様に消防団活動に対する理解を深めていただき、一人でも多くの方に消防団活動に参加いただけることを期待しています。



誇りを胸に

熱い消防団員、募集

自分に何ができるのか、探していた。これしかない!と思った。

FDMA 消防庁

森田ポンプ	ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管	消防被服一式
各種消火器	消防機器一式

---

株式会社 能代消防センター 立

株式会社 協

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

**消 防**

ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

**設 備**

火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

**猿田興業株式会社**

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)  
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

## 秋田県の消防団員数

## 1. 消防団員数の推移 (平成21年以降)

(各年10月1日現在)

	消防団数 (団)	条例定数 (人)	実団員数 (人)	内 訳 (人、団)				
				男性団員	女性団員		機能別団員	
					団員数	採用団	団員数	採用団
昭和31年	93		36,174					
平成21年	32	20,188	18,196	18,030	166	14	55	2
平成22年	32	20,166	18,120	17,938	182	16	140	3
平成23年	32	20,091	17,951	17,736	215	17	163	4
平成24年	32	20,066	17,793	17,555	238	18	191	4
平成25年	32	19,583	17,676	17,413	263	19	255	6
平成26年	32	19,531	17,607	17,278	329	20	277	6

## 2. 消防団員数 (平成26年10月1日現在)

(単位：人、%)

消 防 団 名	条 例 定 数	実 団 員 数	う ち		定 数 充 足 率	女 性 団 員 の 割 合
			女 性 団 員	機 能 別 団 員		
鹿 角 市	892	832	25	32	93.27	3.00
小 坂 町	170	158	0	0	92.94	-
大 館 市	1,280	1,117	75	30	87.27	6.71
北 秋 田 市	870	781	51	0	89.77	6.53
上 小 阿 仁 村	120	90	0	0	75.00	-
能 代 市	850	730	11	24	85.88	1.51
藤 里 町	125	121	0	0	96.80	-
三 種 町	507	424	6	0	83.63	1.42
八 峰 町	281	248	3	0	88.26	1.21
男 鹿 市	820	756	6	0	92.20	0.79
潟 上 市	508	489	19	0	96.26	3.89
五 城 目 町	230	181	0	0	78.70	-
八 郎 潟 町	85	78	0	0	91.76	-
井 川 町	145	126	0	0	86.90	-
大 潟 村	52	48	0	0	92.31	-
秋 田 市	2,100	1,930	19	11	91.90	0.98
由 利 本 荘 市	1,802	1,690	2	128	93.78	0.12
に か ほ 市	580	569	17	52	98.10	2.99
大 仙 市	1,691	1,345	40	0	79.54	2.97
仙 北 市	767	596	15	0	77.71	2.52
美 郷 町	448	384	0	0	85.71	-
横 手 市 横 手	467	434	3	0	92.93	0.69
横 手 市 増 田	261	249	0	0	95.40	-
横 手 市 平 鹿	452	433	12	0	95.80	2.77
横 手 市 雄 物 川	467	437	0	0	93.58	-
横 手 市 大 森	249	237	1	0	95.18	0.42
横 手 市 十 文 字	494	457	3	0	92.51	0.66
横 手 市 山 内	178	166	7	0	93.26	4.22
横 手 市 大 雄	222	216	5	0	97.30	2.31
湯 沢 市	1,705	1,652	9	0	96.89	0.54
羽 後 町	513	456	0	0	88.89	-
東 成 瀬 村	200	177	0	0	88.50	-
計	19,531	17,607	329	277	90.15	1.87

支部情報アラカルト

若者&女性育成プランを導入!!

秋田市消防団

秋田市消防団では地域防災力の実効性を確保していくため、新しい人材育成システム『若者&女性育成プラン』を平成二六年度新たに導入、五月から実施しました。

若者プランは、経験年数の少ない班長以下の団員(各分団から毎回違う団員二名を推薦、全員受講させる)を対象として、現場活動で必要



な専門知識や技術のほか、団員としての心意気と将来展望といった内容も含まれており、受講後は空前絶後の被害が予想される地震等の災害に対して、自らの身の安全と地域全体の安全・安心のため消防団員としてどのように向き合うべきかについて考えるところも



に、地域防災の中核人としてより高い意識を持って活動していくことを誓いました。

女性プランは、全女性団員を対象

として、団活動を行う上で必要な知識技術を習得し、地域住民等が集まる場に積極的に出向き、あるいは要請によって出向し対象となる住民等の付託に合う事項について助言、指導できる知識技能を身に付けることを目的とした育成システムで、応急手当指導や未就学児に対する防火教育、住宅用火災警報器の普及啓発や取付け指導のほか、消火・通報・避難誘導といった現場指導等の内容で構成され、毎月一回のスケジュールとなっております。

若者プラン卒業生は、所属の分団で、女性プランの卒業生は、地域住民等に対して主体的に貢献し、地域防災力の実効性を確保していきま

【情報提供】秋田市支部

火災の発生状況 速報値

(秋田県総合防災課調べ)

	平成26年		平成25年			同期比較	
	12月	累計	12月	累計	年計	12月	累計
建 物	14	197	21	204	204	- 7	- 7
林 野	0	44	0	34	34	0	10
車 輜	4	27	1	39	39	3	-12
そ の 他	3	68	2	72	72	1	- 4
合 計	21	336	24	349	349	- 3	-13
死 者 数	3	34	1	22	22	2	12
負 傷 者 数	2	53	4	66	66	- 2	-13



公益財団法人秋田県消防協会



主 査	(兼)業務執行理事 事務局 局長	監 事	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	理 事	副 会 長	会 長	
石 山 和 美	佐 藤 孝 子	高 橋 尚 文	高 階 健 太 郎	鈴 木 俊 昭	成 田 俊 昭	泉 篤	三 浦 肇	小 林 博 美	齊 藤 和 雄	周 防 彦 宗	近 野 宗 一	稲 葉 盛 榮	黒 澤 文 男	渡 辺 雅 人	海 野 達 雄	成 田 十 喜 男	草 薨 忠 誠	中 田 潤